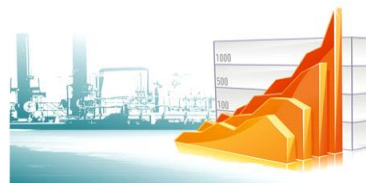


ぎふ経済レポート



令和4年5月分
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは 5月25日～27日を中心に実施し、6月14日時点で作成。

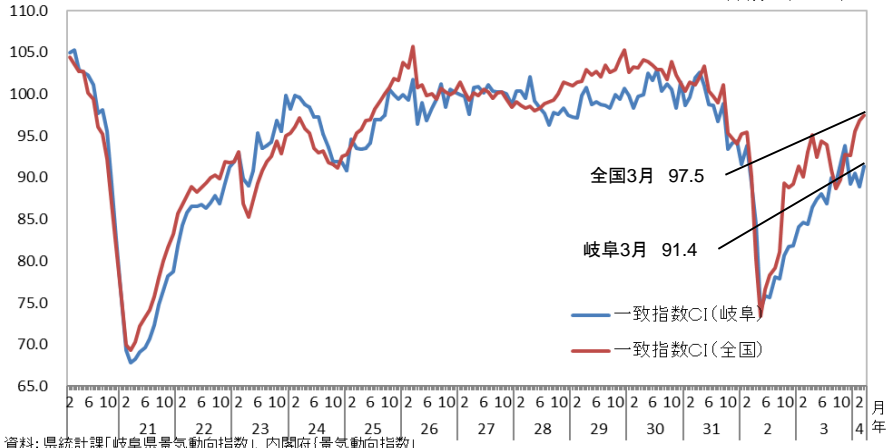
景気動向

○3月の景気動向指数(一致指数)は、91.4で前月比2.5ポイント上昇した。

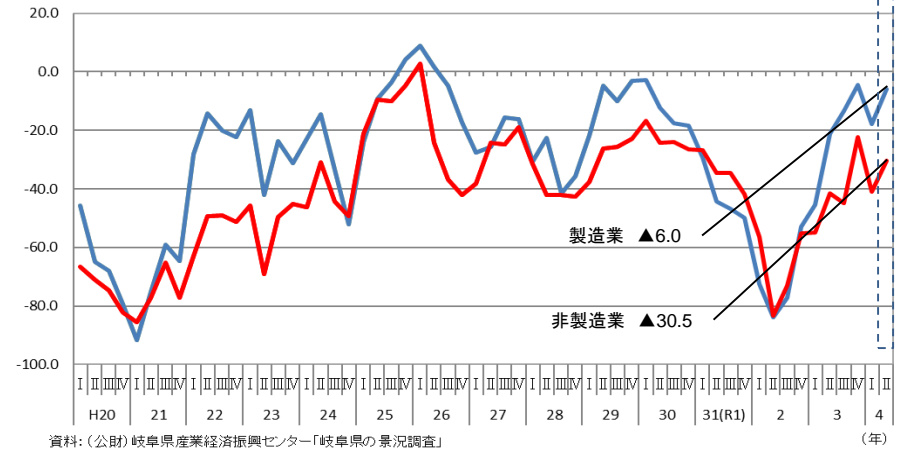
○4月の県内中小企業の景況感は、▲16で前月比17ポイント上昇した。

○R4年4-6月期の景況DI見通しは、製造業で前期比11.8ポイント、非製造業で同10.5ポイント上昇。売上高DI見通しは、製造業で前期比8.8ポイント、非製造業で同5.3ポイント上昇。

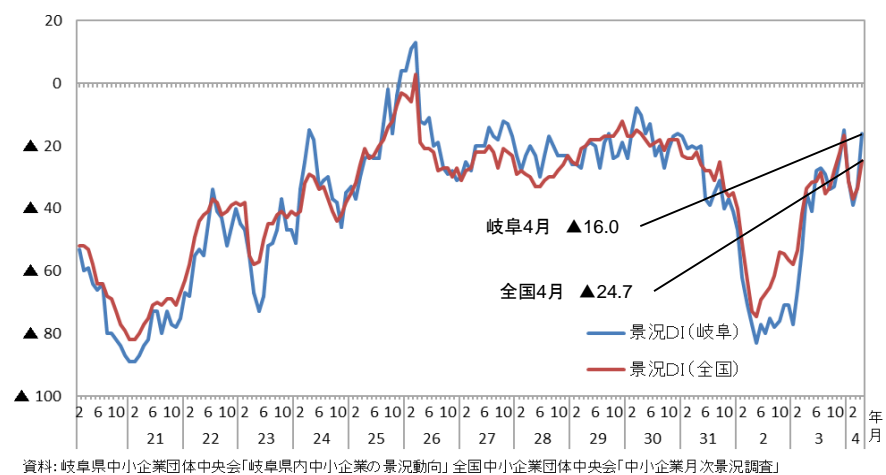
岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移 (平成27年=100)



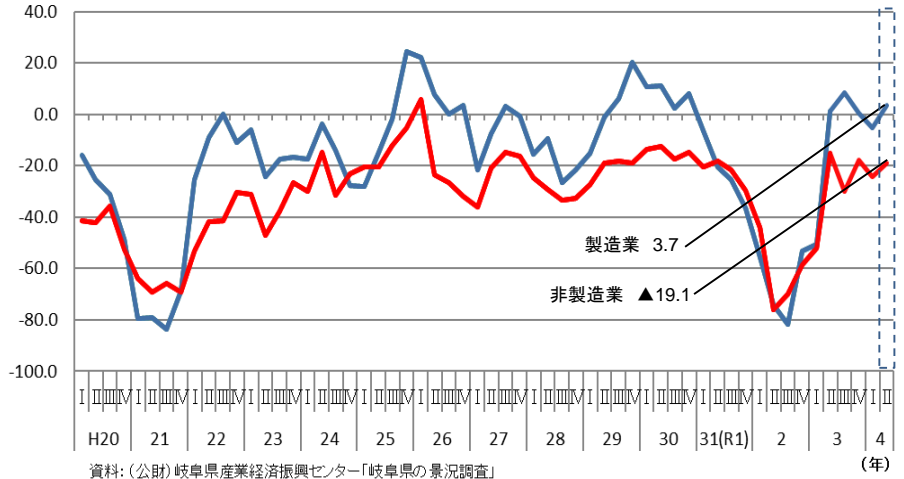
県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



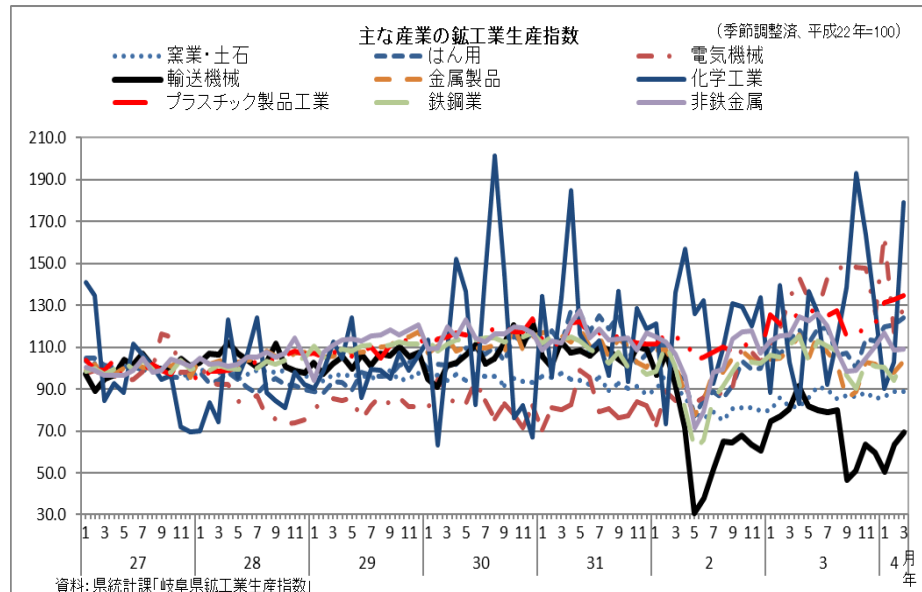
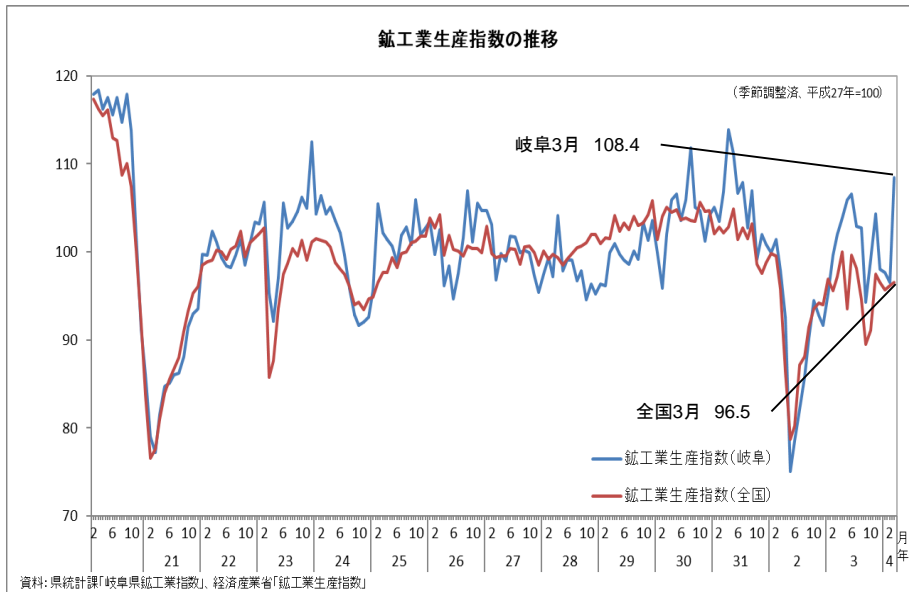
県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



製造業

○3月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、108.4で前月比11.9%と上昇。
○産業別の前月比では、全ての区分で上昇した。

○3月の主な産業の指数は、化学工業で前月比73.9%、鉄鋼業で同10.6%、電気機械で同9.8%、輸送機械で同9.3%、金属製品で同5.1%、はん用で同2.7%、プラスチック製品工業で同1.4%、非鉄金属で同0.3%、窯業・土石で同0.2%と全ての区分で上昇した。



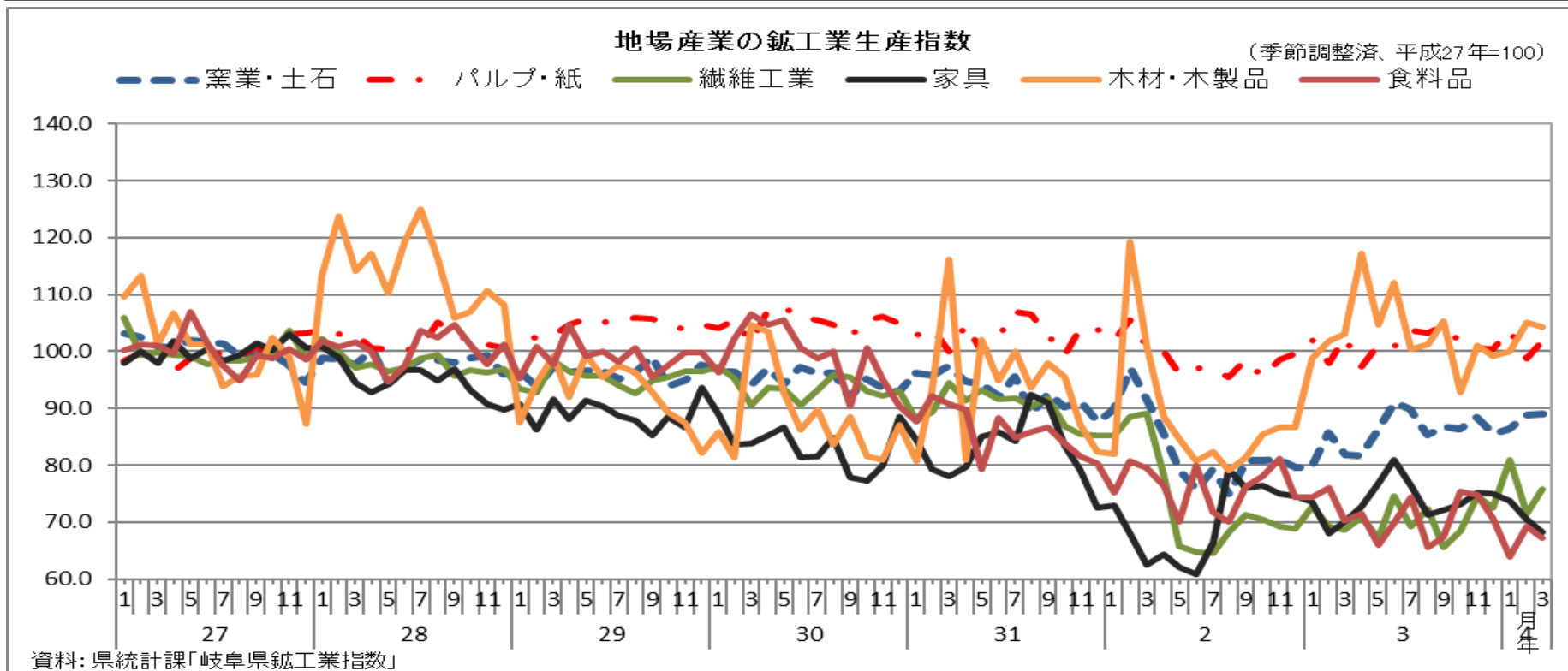
現場の動き

(※新型コロナウイルス、原油や資材高騰、ウクライナ情勢に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ 半導体不足によるトヨタ減産の影響により、4月売上は前年同月比2割減少。5月も同様に厳しい見込み。今後は明治用水の漏水の影響も出てくると思われる。(輸送機器)
- ◆ 令和4年3月期の売上は5.2%増加。しかし、上海ロックダウン等による生産効率の悪化に伴う費用が増加し、営業利益は45%減少した。(電気機械器具)
- ◆ 老朽設備の更新に際し、自動化、精度、品質の向上を目的に設備投資を契約計画している。また、DX化に向けて、インフラも含めたシステム投資を増額する計画。(生産用機械器具)
- ◆ 脱炭素社会に向けた商品作りが必要とされており、開発に取り組んでいる。(プラスチック製品)

製造業-2

○3月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、繊維工業で前月比6.0%、パルプ・紙で同3.2%、窯業・土石で同0.2%と上昇した一方で、家具で同▲3.3%、食料品で同▲3.2%、木材・木製品で同▲0.9%と低下した。



現場の動き

(※新型コロナウイルス、原油や資材高騰、ウクライナ情勢に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ 業況は徐々に上向いている印象。前々年同期比では減少、前年同期比では増加。しかし、ガス代の高騰により、大きく打撃を受けている。(陶磁器)
- ◆ 受注件数は前年同月比20%増加。しかし、あらゆる原材料の高騰が続き、製品価格改定が追い付かない。また材料入荷遅延により、納品までの期間が延びている。(刃物)
- ◆ 各種仕入価格が上昇しており、4月には瓶の価格が10%上昇。また、原材料の一つである玉ねぎも高騰しており、これ以上自社努力での価格の維持が困難となり、5月より全商品の値上げ(7%程度)を実施。(食品)

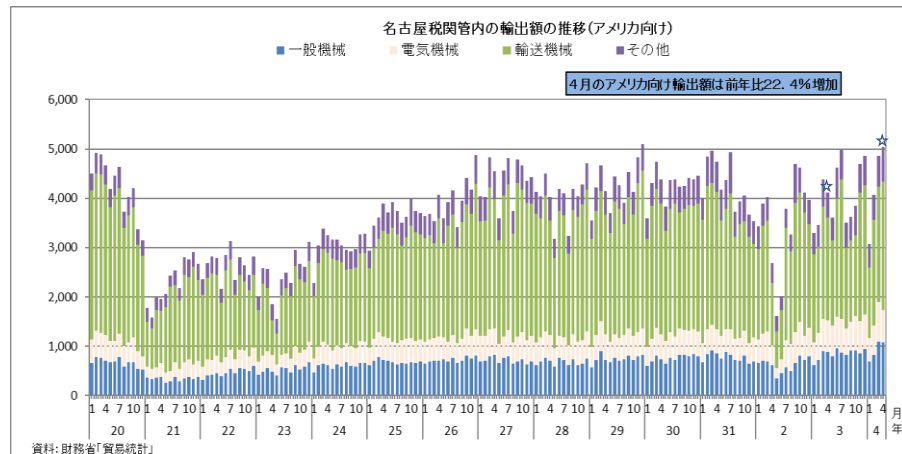
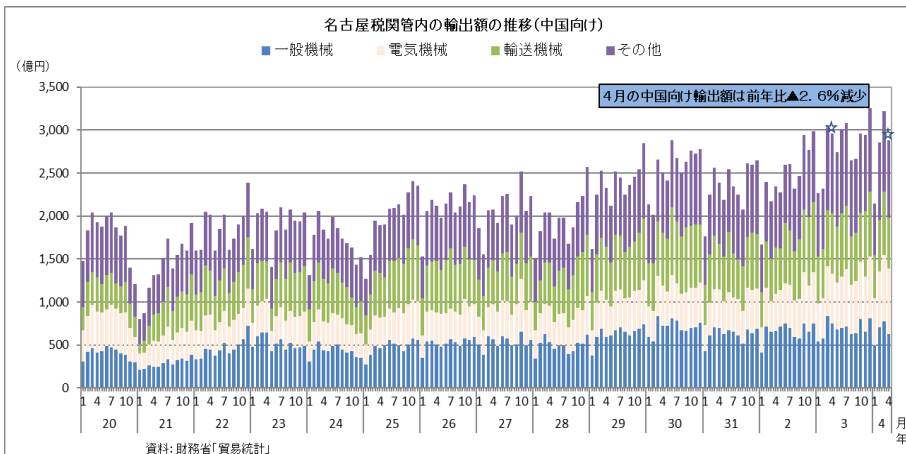
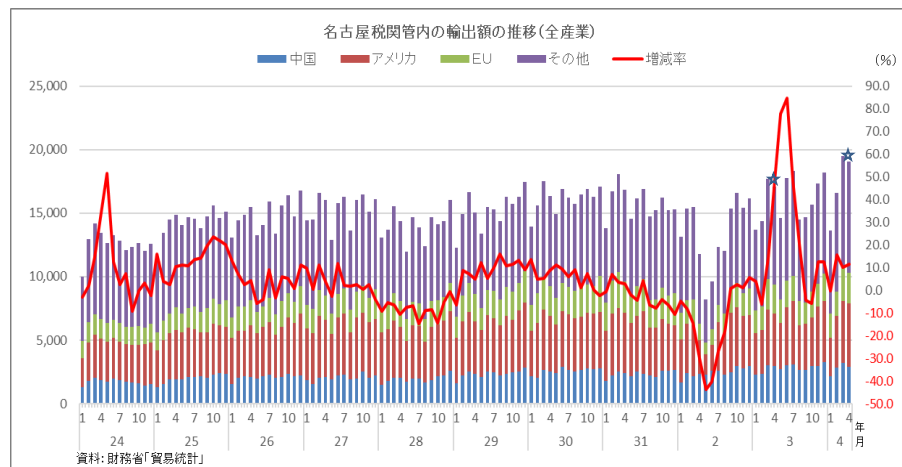
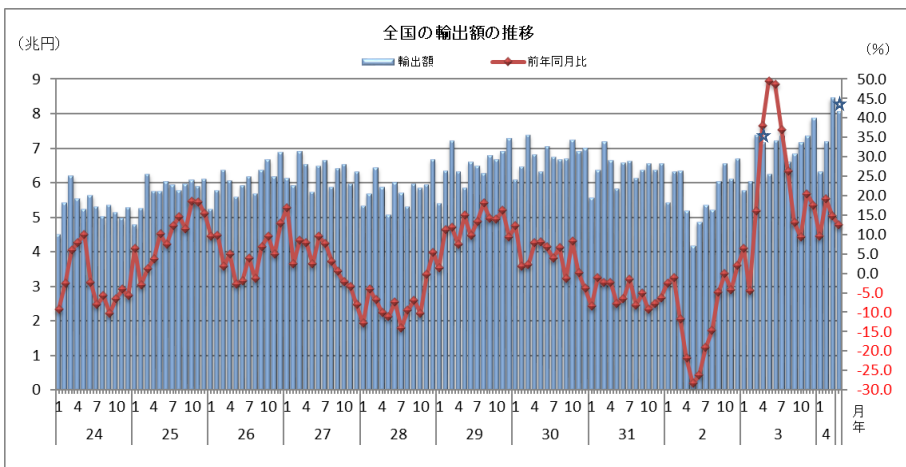
輸 出(名古屋税関管内)

○4月の輸出額(全国)は、8兆756億円と前年同月比12.5%増加した。

○4月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆9,056億円と前年同月比11.5%と増加し、3ヶ月連続で前年同月を上回った。

○中国向けは、全体で前年同月比▲2.6%と減少した。その内、電気機械で同30.2%と増加したものの、一般機械で同▲16.0%、輸送機器で同▲15.6%と低下した。

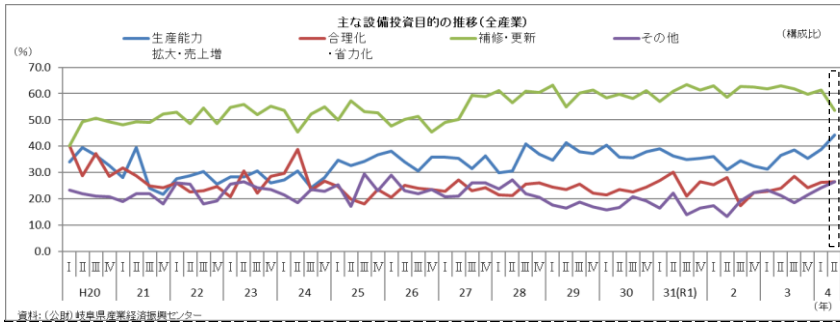
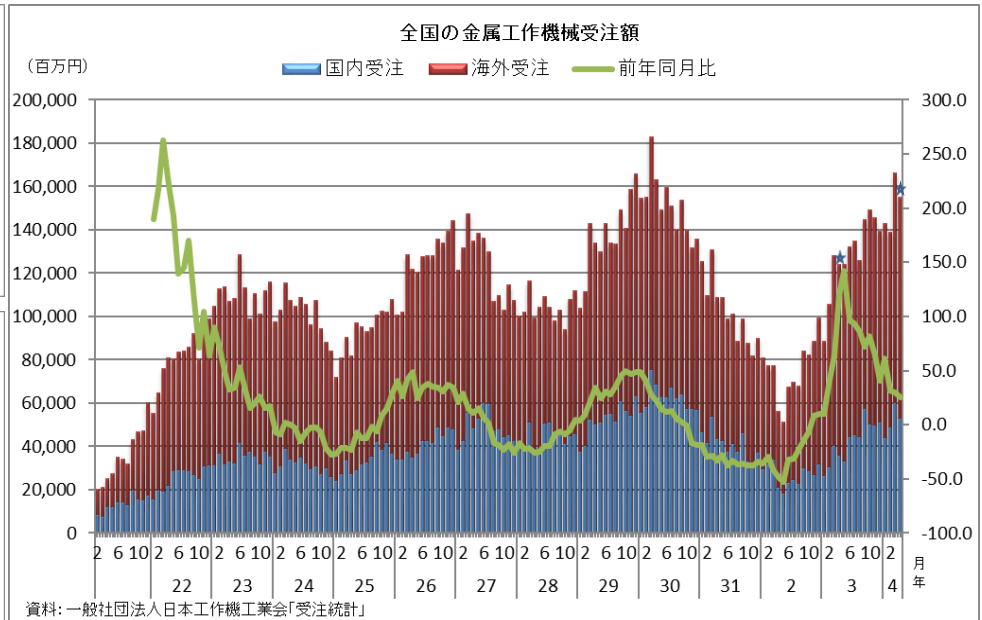
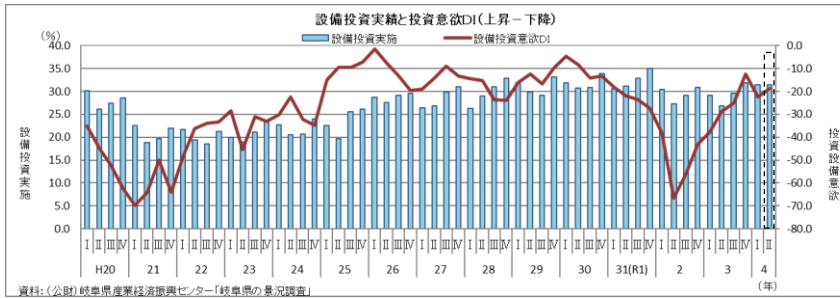
アメリカ向けは、全体で前年同月比22.4%と増加した。その内、輸送機械で同24.7%、一般機械で同23.0%、電気機械で同2.4%と増加した。



設備投資

○R4年4－6月期の設備投資実施DI見通しは前期比0.1ポイント上昇、設備投資意欲DI見通しは同3.6ポイント上昇。設備投資実施DI見通しの目的別では、「生産能力拡大・売上増」で前期比5.6ポイント、「合理化・省力化」で同0.2ポイント上昇、「補修・更新」で同▲7.8ポイント低下。

○4月の全国の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比25.0%増加と18ヶ月連続で前年を上回った。内訳は国内受注では同47.4%増加と14ヶ月連続、海外向けは同15.8%増加と18ヶ月連続で前年を上回った。



現場の動き

(※新型コロナウイルス感染症、原油や資材高騰、ウクライナ情勢に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ 新規製品ののための成型機を今秋に導入予定。(プラスチック)
- ◆ 減少する外装タイル需要を挽回するため、事業再構築補助金を活用し、設備導入予定。(陶磁器)
- ◆ 国内及び海外工場において増産のための設備投資を検討中である。(非鉄金属)
- ◆ 社内在庫の最適化のため、生産管理システムの導入を検討している。(刃物)
- ◆ 自動車関連の製造業、とりわけトヨタ系は受注先からの要請により温室効果ガスの削減を求められており、工場の屋根に太陽光パネルを設置するといった設備投資がみられる。(金融機関からのヒアリング)
- ◆ 物流倉庫用の土地を確保し融資の内定を受けていたが、建築価格上昇により建設を見送った先がある。(")

新型コロナウイルス感染症、原油や資材高騰、ウクライナ情勢に伴う経済変動の影響について

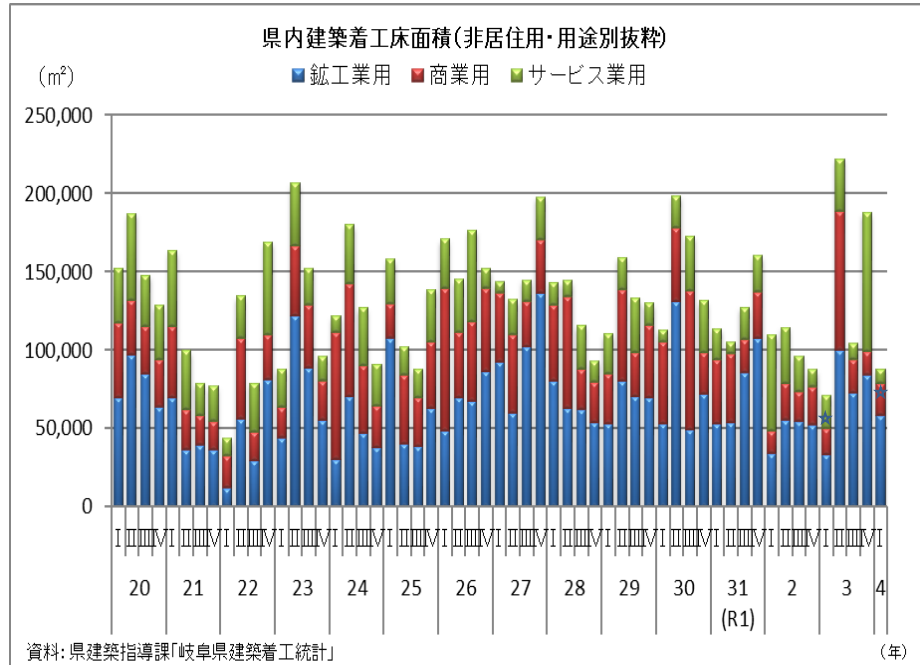
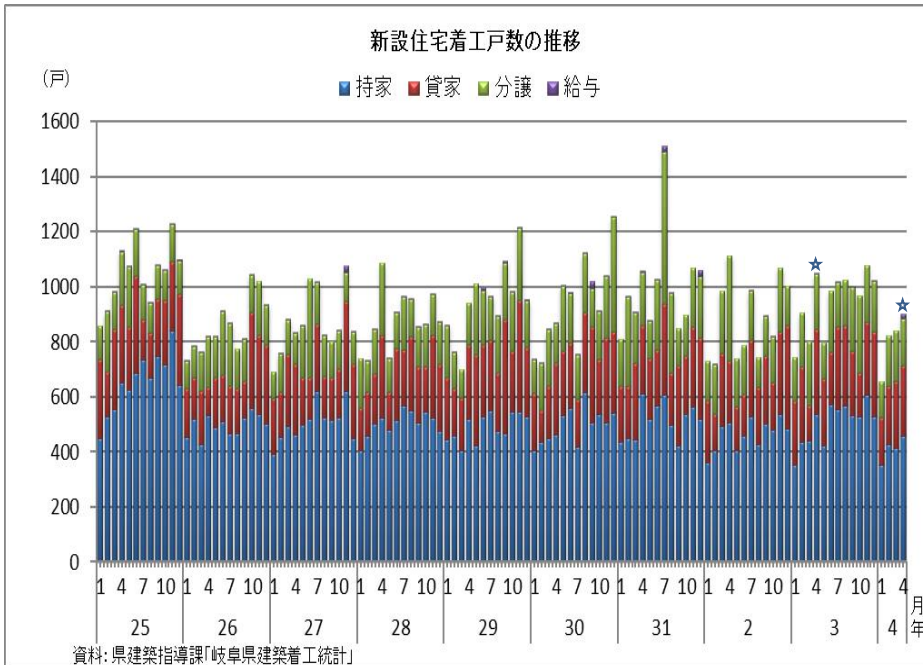
- ◆ 半導体不足や中国への輸出の減少で売上は減少。さらに原材料費の高止まりが業績を圧迫している。依然として問題はひとつ解決されておらず、今後の見通しが立たない。(輸送機械)
- ◆ 製品のチェックのためにヘリウムガスを利用しているが、ロシアからメインに入荷しているため、今後の入荷見込みが立たない。自動車業界ではどこでも使用しており、影響が大きいと思われる。(輸送機械)
- ◆ 中国のゼロコロナ政策により、全ての分野での部品が滞りメーカーが減産したため、受注量が減少。今後の見通しは全く不明であり、同政策が拡大されると、国内メーカーの減産規模が大きくなる。(生産用機械)
- ◆ 国内は建築資材や設備の調達難・価格高騰等により、計画遅延・中止が増加する懸念がある。(はん用機械)
- ◆ LNG価格の高止まりによるエネルギー費用増加が利益を圧迫している。また、円安により輸入原材料の値上げも予想される。(プラスチック製品)
- ◆ 中国ロックダウンの影響により、5月はほとんどラインが停止した。今後もさらに悪化することが考えられる。当社の製品は受注生産であり、自社で打つ手がない。(プラスチック製品)
- ◆ あらゆる消費財が値上がりしているため、値上げしやすい環境ではあるものの、物流費や光熱費等の経費増加までは厳しい状況。(繊維・アパレル)
- ◆ 人流が戻り始め、10～20%の受注増加。しかし、原材料の価格上昇に加え、サプライチェーンの停滞により入荷がされず、輸入納期が倍以上になっている。(繊維・アパレル)
- ◆ 昨年対比で1～4月は燃料のLNGが70%アップ。対処として4月より値上げを実施したが、すでに受注予約分が旧価格であり、本格的に収益改善に寄与するのは今秋以降になる予定。(陶磁器)
- ◆ 新電力との契約で電気料金を削減していたが、燃料高により契約打ち切りとなった。(刃物)
- ◆ 原料のパルプの値段が上がっており、高い水準で維持されている。外国産であるため、円安の影響も受けている。また、海上運搬の停滞により輸出が伸びず、円安の恩恵は受けていない。(紙)
- ◆ 建設業は、原材料価格が上昇したとしても、受注している案件について単価交渉がしにくいいため、利益水準がさらに厳しくなるのではないかと懸念している。(金融機関からのヒアリング)
- ◆ 輸入を行っている先は、2～3月の急激な円安によりデリバティブ契約の消滅条件の発動により契約が消滅したため、4～5月は本契約の注文が多く、リスク回避に向けた動きが激しい。(金融機関からのヒアリング)

住宅・建築投資

○4月の住宅着工戸数は、前年同月比▲14.0%と減少した。

○持家及び貸家で前年同月比▲15.4%、分譲で同▲16.3%と減少した。

○1-3月期の非居住用の建築着工床面積は、サービス業用で前年同期比▲55.0%と減少したものの、鉱工業用で同76.0%、商業用で同17.1%と増加し、全体で同23.3%と増加した。



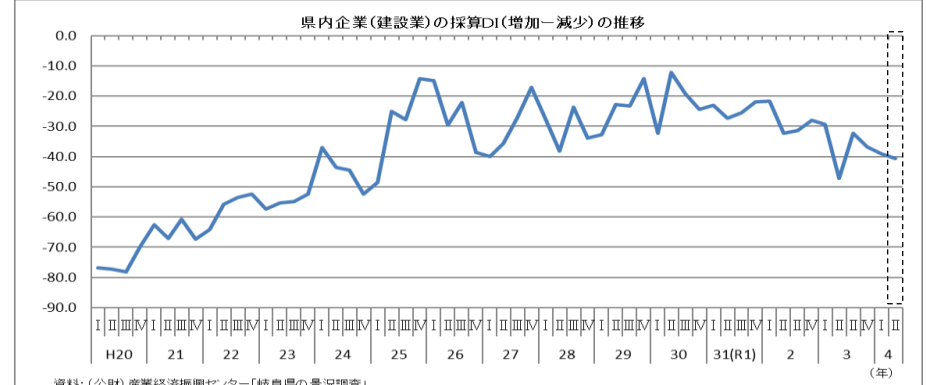
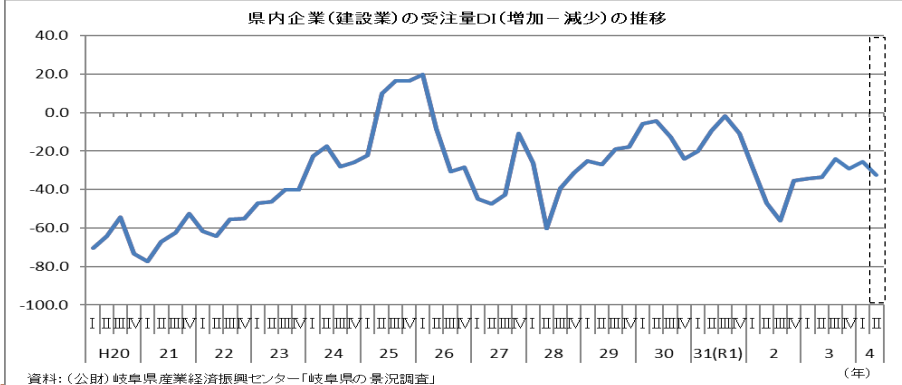
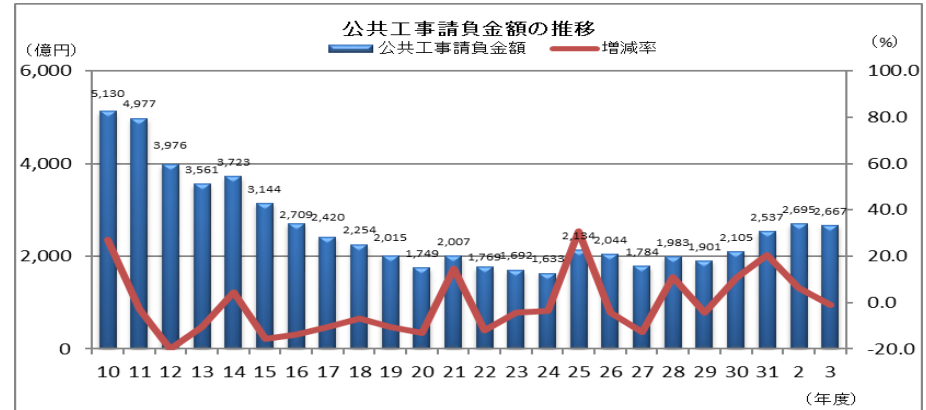
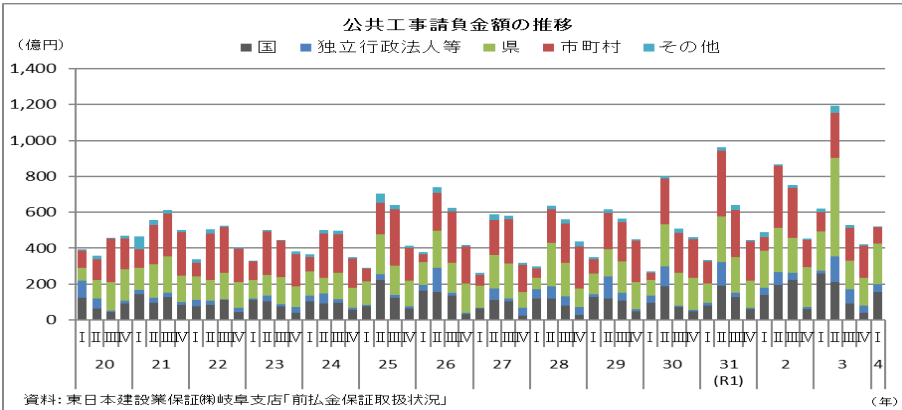
現場の動き

＜ウッドショックの影響も含む＞

- ◆ 消費動向が物価高騰の影響により減退し住宅建築が伸びず、木材製品が思ったより売れない。(組合)
- ◆ 運送費は製材会社側が負担する形態であるため、これ以上の価格上昇は厳しい。(製材)
- ◆ 木材価格の上昇はあるが、住宅着工件数が減少傾向で想像していたほど入手困難ではない。むしろ、ヨーロッパ産も含め物流が懸念材料。ロシア材の代替品を県内産のほか、九州や四国から確保している。(加工)
- ◆ 木質系建材が合板の代替品として使われ品薄な状況。給湯器、便器、半導体を使用している製品など、上海のロックダウンの影響で入手できないものがある。(加工)

公共工事

- 1-3月期の発注者別の公共工事請負金額は、独立行政法人で前年同期比200.8%、県で同3.4%増加したものの、国で同▲40.6%減少するなど、全体で同▲16.1%減少した。
- 県内建設業のR4年4-6月期の受注量DI見通しは前期比▲6.9ポイント、同採算DIは同▲1.5ポイント低下。



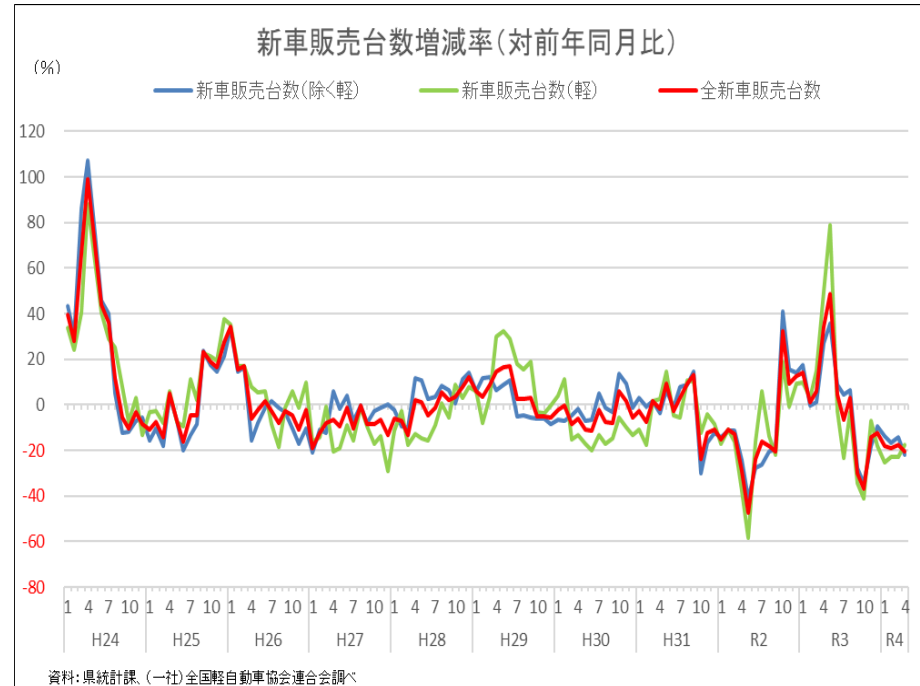
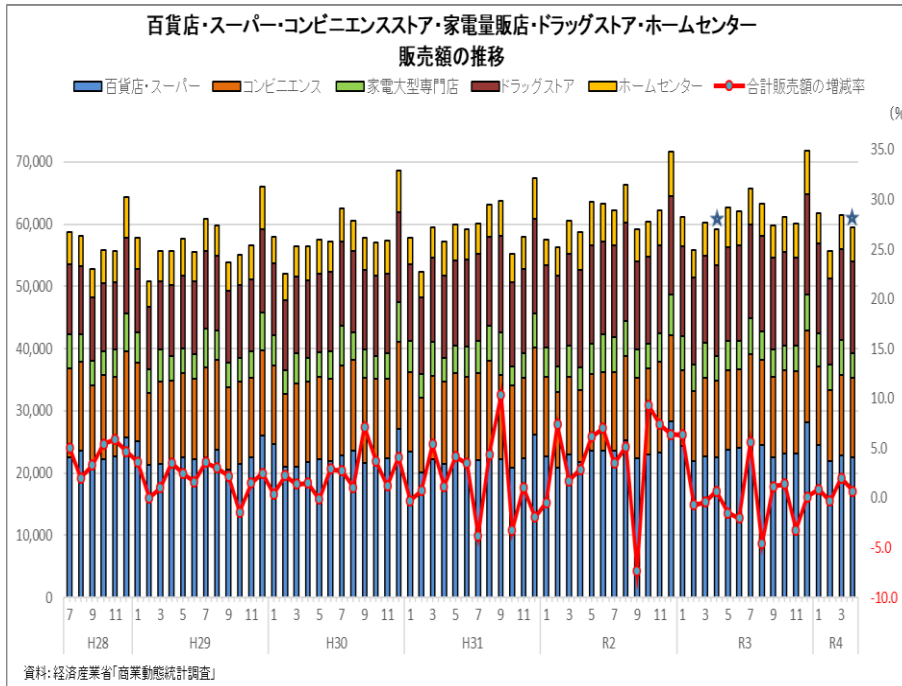
現場の動き

- ◆ 合板、異形棒鋼、建築鋼材(ステンレス・高圧ボルト・H鋼・コラム)類が高騰している。
- ◆ 新卒者の採用については、ここ数年同様に希望人数に届かず。建設業界の魅力を上向きさせていく必要がある。
- ◆ 技術者が不足、業界内で取り合いが進んでいる。
- ◆ 国交省がICT施工を加点対象とする動きが加速している。自社での取組みが求められており、生産性が向上される、働き方が改善される等のメリットと費用面を勘案し検討している。(以上、建設)

個人消費(流通・小売)

○4月はコンビニで前年同月比3.4%、ドラッグストアで同1.5%、家電大型専門店と同0.5%と増加し、ホームセンターで同▲4.0%、百貨店・スーパーで同▲0.2%と低下し、全体で同0.7%と増加した。

○4月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比▲22.1%と8ヶ月連続で前年同月を下回った。軽自動車は同▲17.8%と11ヶ月連続で前年同月を下回った。合算では同▲20.5%と、前年同月を8ヶ月連続で下回った。



現場の動き

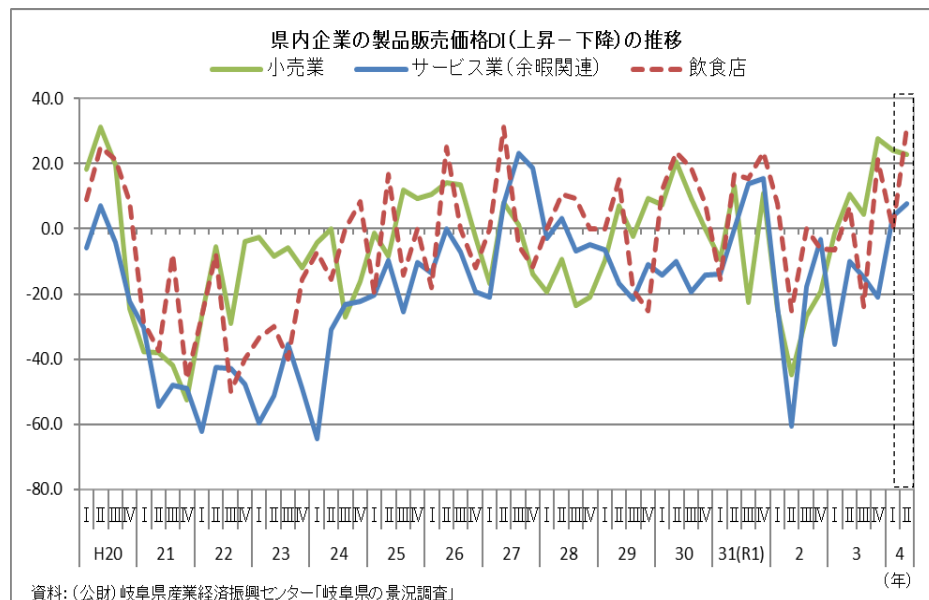
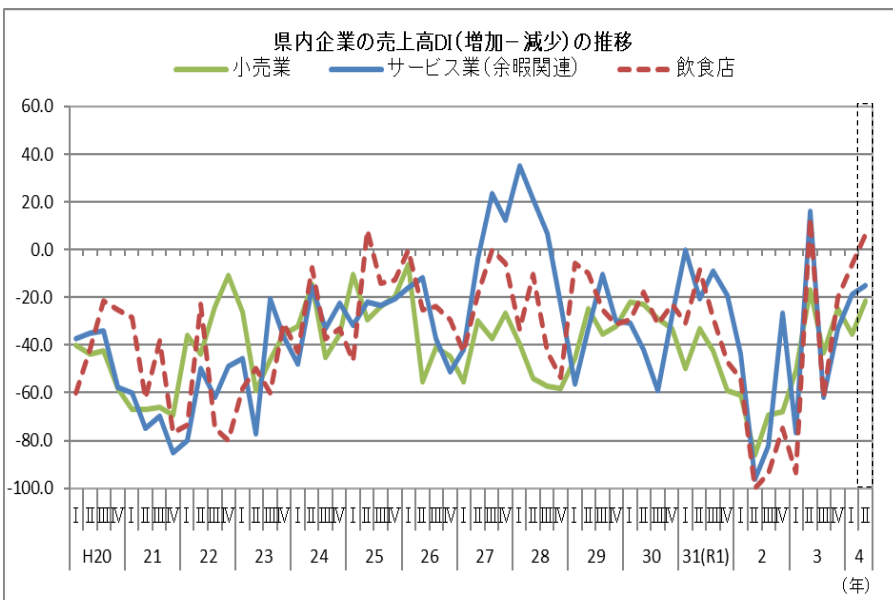
- ◆ 生鮮食品スーパーの一部商品に価格上昇が見受けられる。飲食店にも影響が出始めている。
- ◆ 各メーカーの値上げに準じた価格改定を毎週実施しなければならない状況。
- ◆ 電気代の増加による運営費用が増加している。
- ◆ 家飲み需要で、酒・日配食品・冷凍食品が好調。弁当・おにぎりなど中食商品が苦戦している。
- ◆ コロナで活動制限の続く学校部活関連商品中心に、一般スポーツ商品全般で低迷している。

(以上、県内商業施設)

個人消費(流通・小売)－2

○R4年4－6月期の売上高DI見通しは、小売業で前期比13.6ポイント、サービス業(余暇関連)で同3.8ポイント、飲食店で同12.4ポイント上昇。

○同じく販売価格DI見通しは、小売業で前期比▲1.4ポイント低下したものの、サービス業(余暇関連)で同4.0ポイント、飲食店で同31.3ポイント上昇。



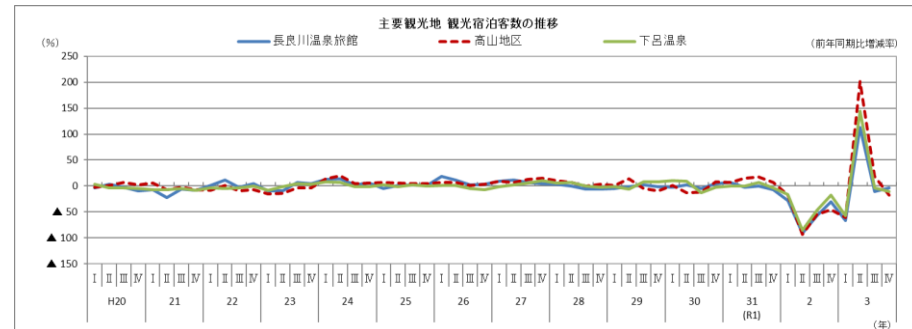
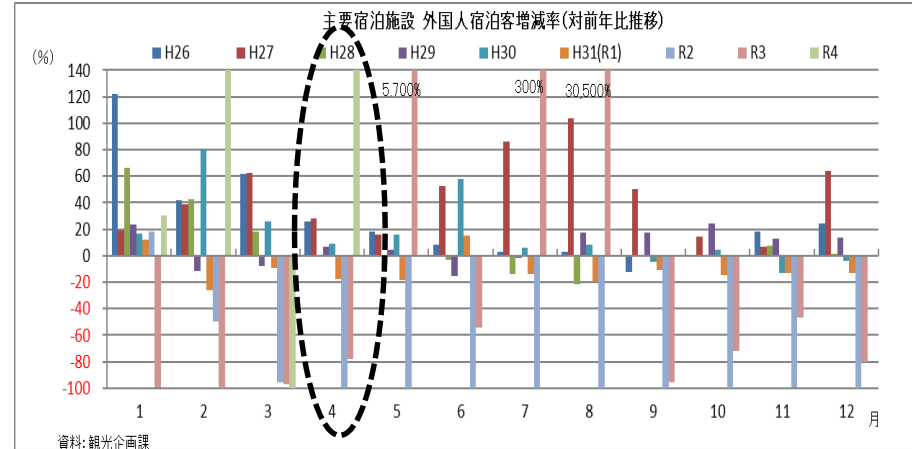
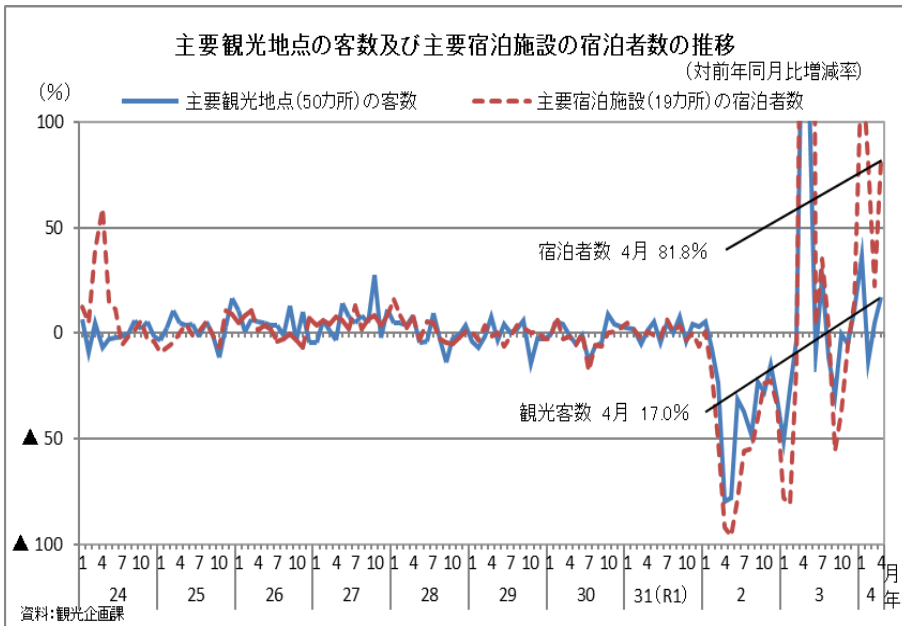
現場の動き

- ◆ 「やなぶら楽市」などを月に2回開催しており、まん延防止等重点措置解除直後は人出が戻ったものの、再びもとに戻ってしまった印象。特に平日の昼間は非常に少ない。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆ まん延防止等重点措置解除後、再開した飲食店も多く酒類の配達が増加したが、客の滞在時間が短いなど、まだまだコロナ前の売上には戻らない。飲食店への卸売だけではなく、家飲み需要に対応すべく工夫を凝らしているが、コロナ前の売上には程遠い。(多治見市商店街)
- ◆ 既に値上がりしたのも再度の値上がりの連絡があった。値上げ前の駆け込み仕入れで在庫が増加。また、原油価格高騰により、車両での配達経費が増加。価格転嫁できていないため利益を圧縮している。(大垣市商店街)
- ◆ 価格が高騰しており、家電が全く売れない。消費の冷え込みが顕著で先の見通しが立たない。(高山市商店街)
- ◆ 生産材料不足のためカメラの納期が遅延。3ヶ月以上遅れているものもある。(高山市商店街)

観光

- 主要観光地における4月の観光客数は、前年同月比17.0%増、コロナ前の令和元年同月比では、▲35.0%となっている。
- 主要宿泊施設における4月の宿泊者数は、前年同月比81.8%増、令和元年同月比では、▲50.2%となっている。

- 4月の主要宿泊施設における外国人宿泊者数は、コロナ前の令和元年同月比では ▲100%となっている。

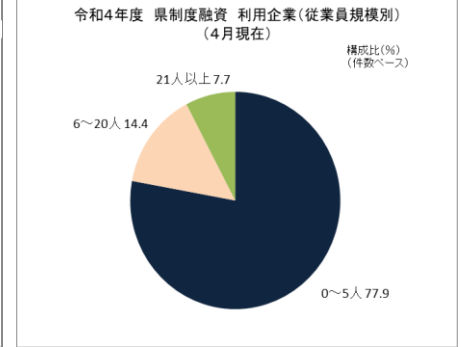
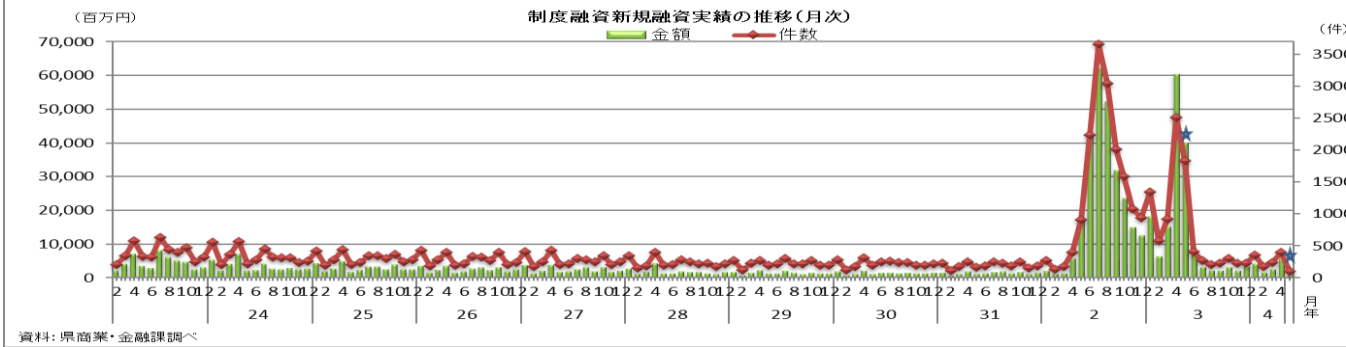
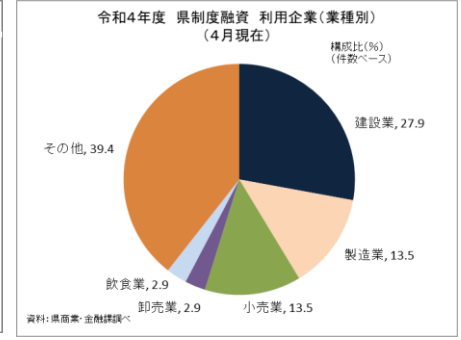
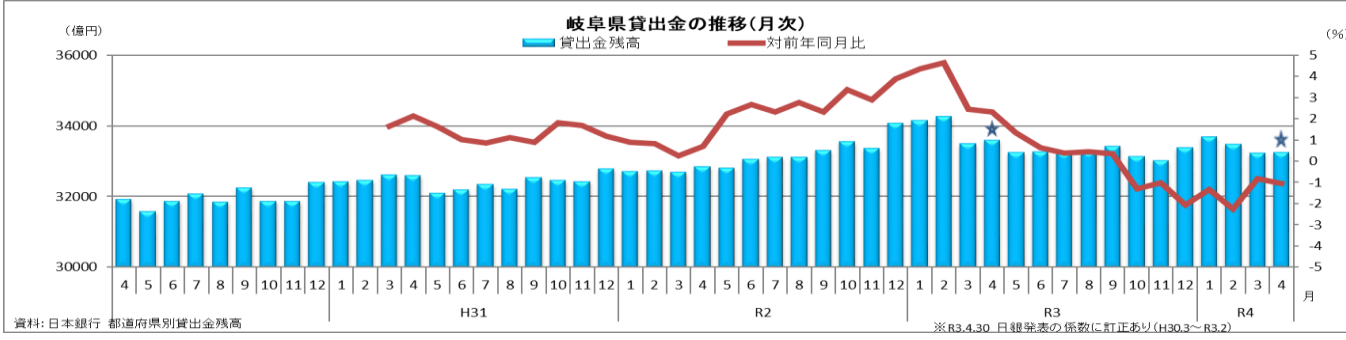


現場の動き

- ◆5月から県の割引キャンペーンが隣接県・地域ブロックまで拡大したため、宿泊客数が増えている。(大垣市、郡上市、多治見市、高山市、下呂市の宿泊施設)
- ◆ネットを利用した予約が増えている。(大垣市、高山市の宿泊施設)
- ◆平日の予約は例年と比較して、5~6割程度。(高山市内の宿泊施設)
- ◆正規社員が減っているが、未だに客数が少ないため非正規での雇用を検討している。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆原材料から一般経費まで値上がりしており、経営に大きな影響を与えている。(岐阜市、下呂市の宿泊施設)
- ◆宿泊料金の値上げを行った。(下呂市内の宿泊施設)

資金繰り

- 4月の岐阜県貸出金残高は、3兆3,248億円と前年同月比▲1.1%と7ヶ月連続で減少。
- 4月の制度融資実績は、金額が1,164百万円で前年同月比で▲97.1%、件数は104件で同▲94.3%と、いずれも12ヶ月連続で減少した。
- 従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の77.9%を占めている。

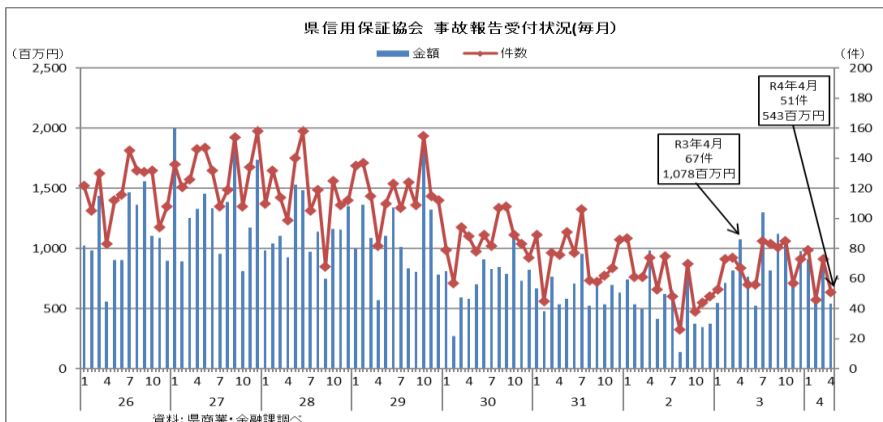
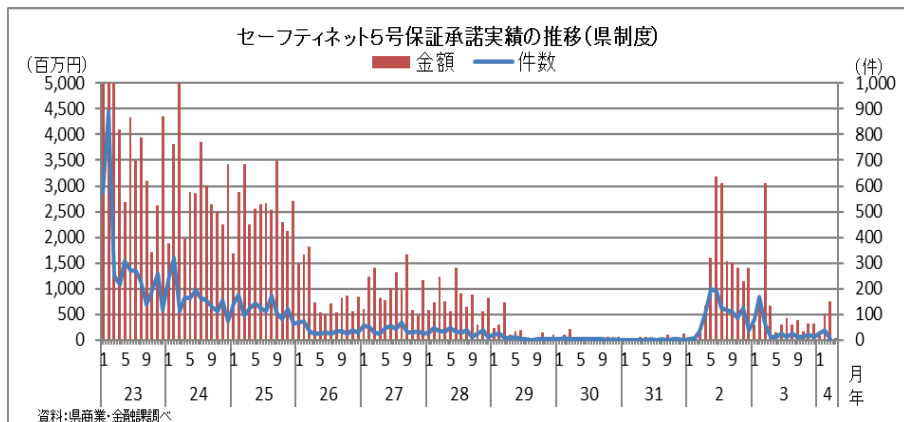
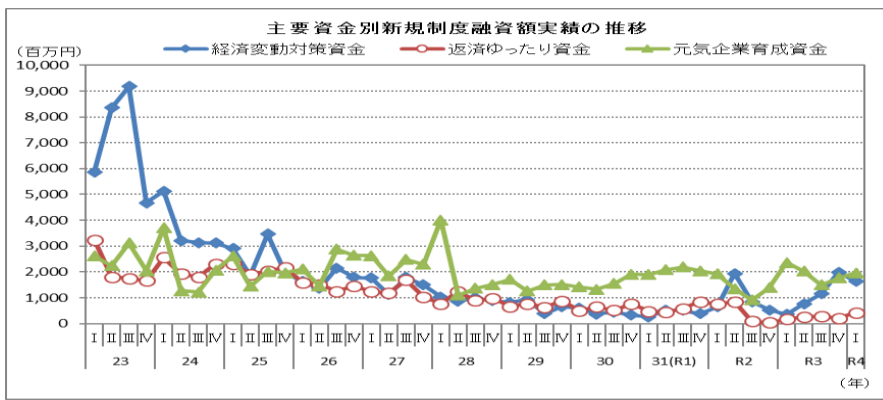
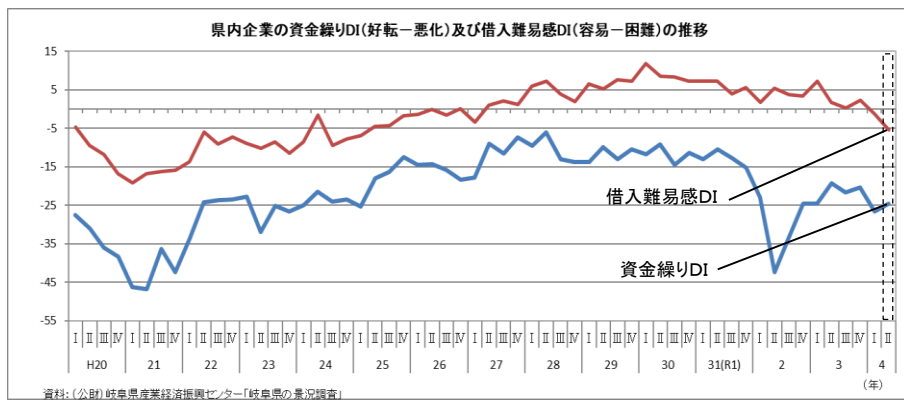


現場の動き

- ◆ 現預金は高止まりしており、資金需要としては強いと言えないが、ウクライナ情勢や原材料価格の上昇等により不確実性が高まっているため、手元流動性資金を厚くする動きがみられる(運転資金需要の高まりがある)。
- ◆ 倒産が出始めている。ゼロゼロ融資で資金調達した先は、現在据置期間であるところが多いが、条件変更で約定返済を停止したとしても、その後の返済が厳しいという先もある。
- ◆ 設備投資については低調。大型プラントの投資がちらほらあるが、優良先に限られる。投資を行いたいが、ゼロゼロ融資の返済が開始することや、原材料価格高騰の外部要因が見通せない状況で、慎重になっている。
- ◆ 脱炭素への取組み(設備投資)を今後どうしていくかの相談が複数の業界からある。(以上、金融機関)

資金繰り-2

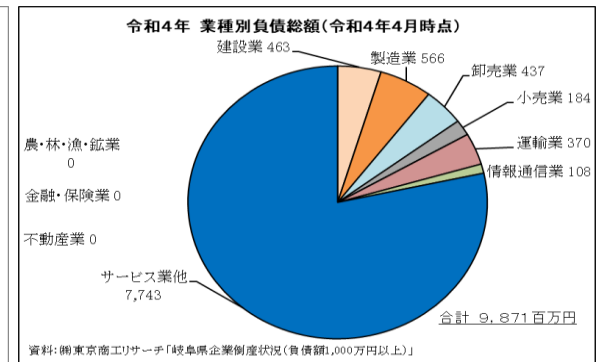
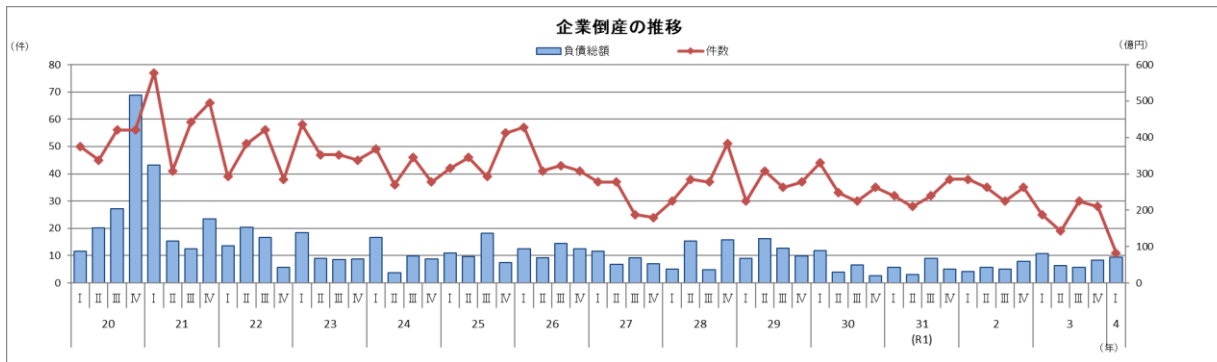
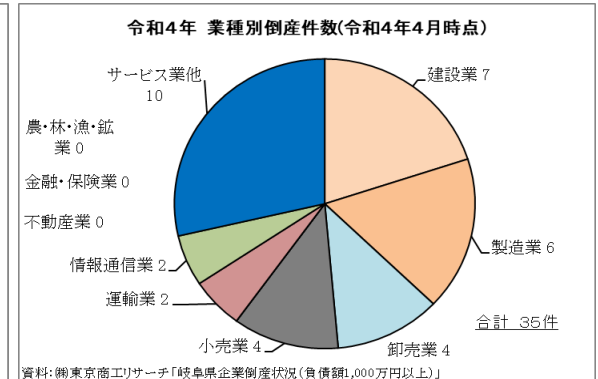
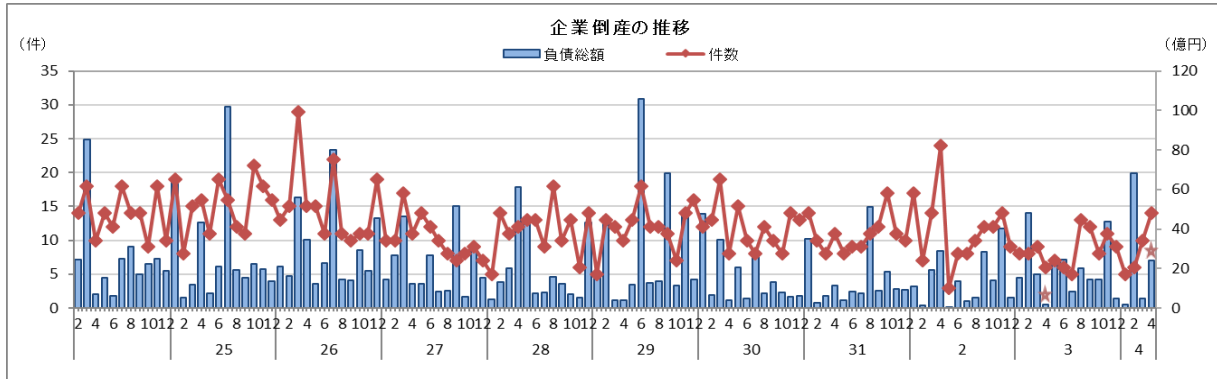
- R4年4-6月期の資金繰りDI見通しは▲24.6で、前期比2.0ポイント上昇。同借入難易感DI見通しは▲5.4で、同▲4.3ポイント低下。
- 1-3月期の主要資金別新規制度融資実績は、返済ゆったり資金で前期比163.5%と3期連続の増加、経済変動対策資金で同366.8%と3期連続の増加、元気企業育成資金で同▲17.0%と5期ぶりの減少となった。
- 4月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が4件で前年同月比▲59件減少、金額は37百万円で同▲626百万円減少した。
- 4月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は51件で前年同月比▲16件減少、金額は543百万円で同▲535百万円減少した。



倒産

○4月単月の倒産件数は前月比4件増の14件、負債総額は前月比1,910百万円増の2,387百万円となった。

○令和3年4月は負債総額1億円以上の倒産の発生はなかったものの、令和4年4月は同倒産6件と増加し、負債総額は前年同月比1,584百万円増加した。



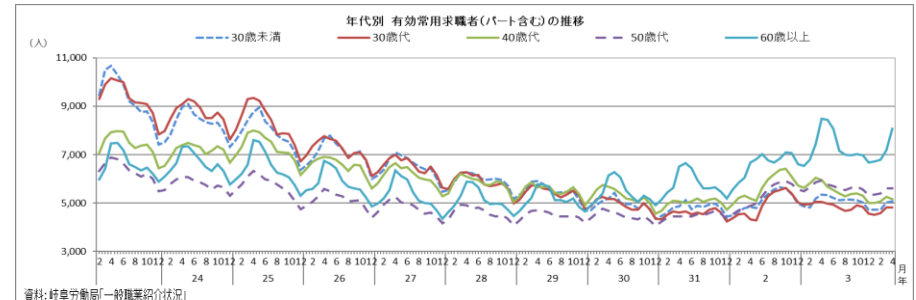
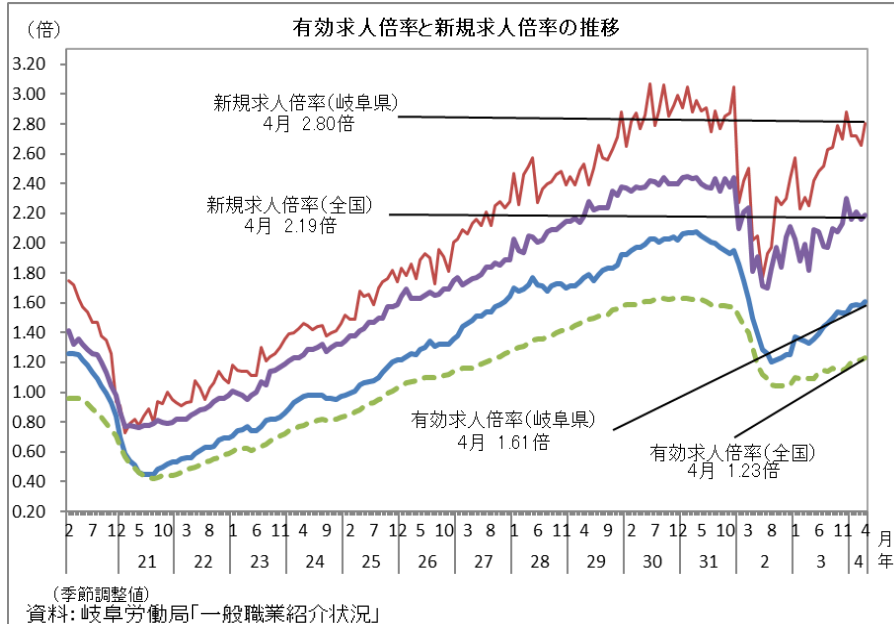
専門機関の分析(東京商工リサーチ、5月18日時点)

- ◆ 持続化給付金や休業協力金、実質無利子・無担保融資(ゼロ・ゼロ融資)、新型コロナ特例リスケジュールといった各種支援策の効果により、岐阜県における倒産件数は10件前後に抑えられている。しかし、ウクライナ情勢の長期化、エネルギー価格の高騰、中国主要都市でのロックダウンによる物流停滞、円安進行等で、企業を取り巻く環境は一段と厳しさを増している。コスト上昇分を価格転嫁出来なければ、息切れする企業も増加し倒産件数の増勢基調が進む可能性は十分に考えられる。

雇用

- 4月の有効求人倍率は1.61倍と、前月比0.03ポイント上昇した。
- 4月の新規求人倍率は、2.80倍と同0.14ポイント上昇した。

- 4月の雇用保険受給者人員は、前月比▲2.0%と減少した。
- 有効常用求職者は、全ての年代で前年同月比で減少した。



現場の動き

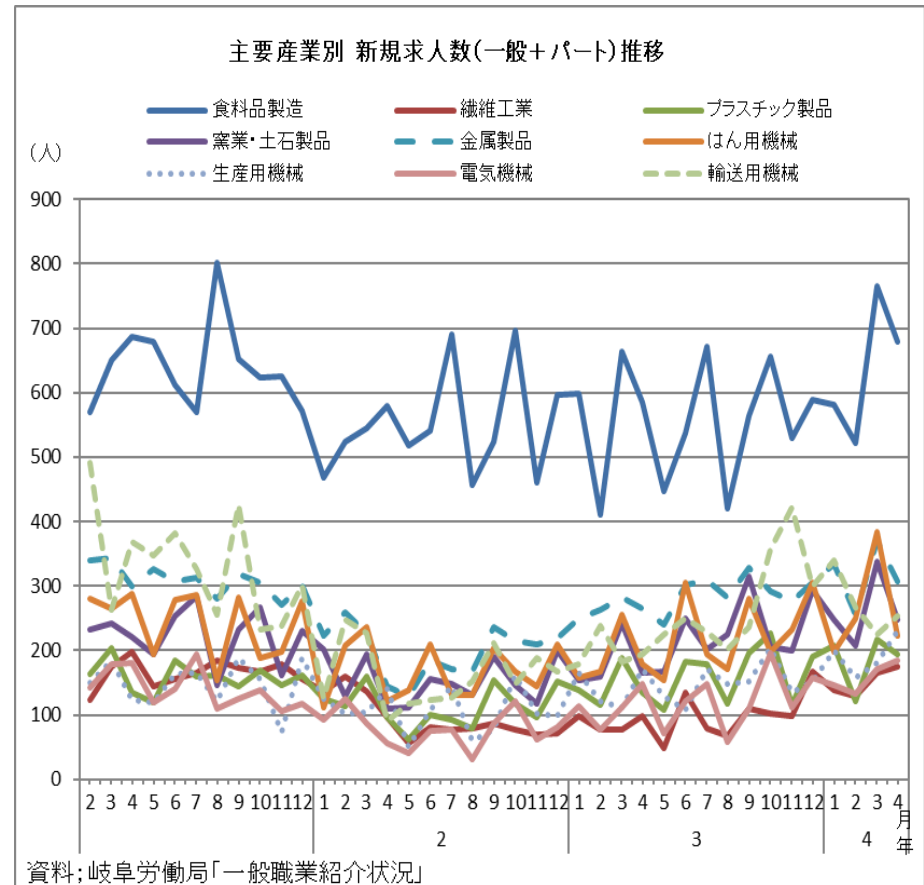
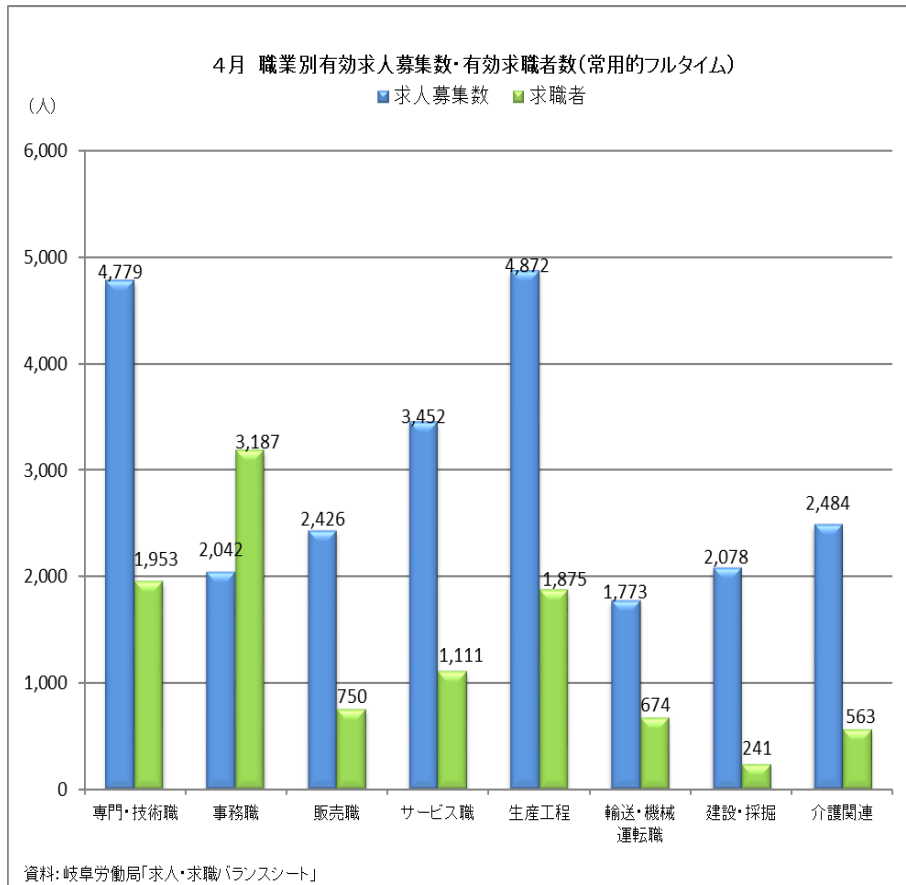
- ◆ 慢性的に不足している。現在は成果報酬型のリクルーティングサービスを利用している。(輸送機械器具)
- ◆ 新卒以外にも、4月に入ってから良い人材が確保できている。(生産用機械器具)
- ◆ 電子加工部門で中期的な事業拡大が見込まれており、製造管理者および現場作業者を多数募集している。(プラスチック製品)
- ◆ 製造現場の人手不足が続いている。雇用しても長続きしないこともある。(刃物)
- ◆ ずっとドライバーの募集を行っているが、賃金が安いことから応募者が少ない。(運輸)
- ◆ 慢性的に従業員の高齢化、人員不足感はあるなか、海外研修生が入ってこないのにより一層人手不足感がある。(アパレル)

雇 用(職業別)

○有効求人倍率は、建設・採掘で8.62倍、介護関連で4.41倍、販売職で3.23倍、サービス業で3.11倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

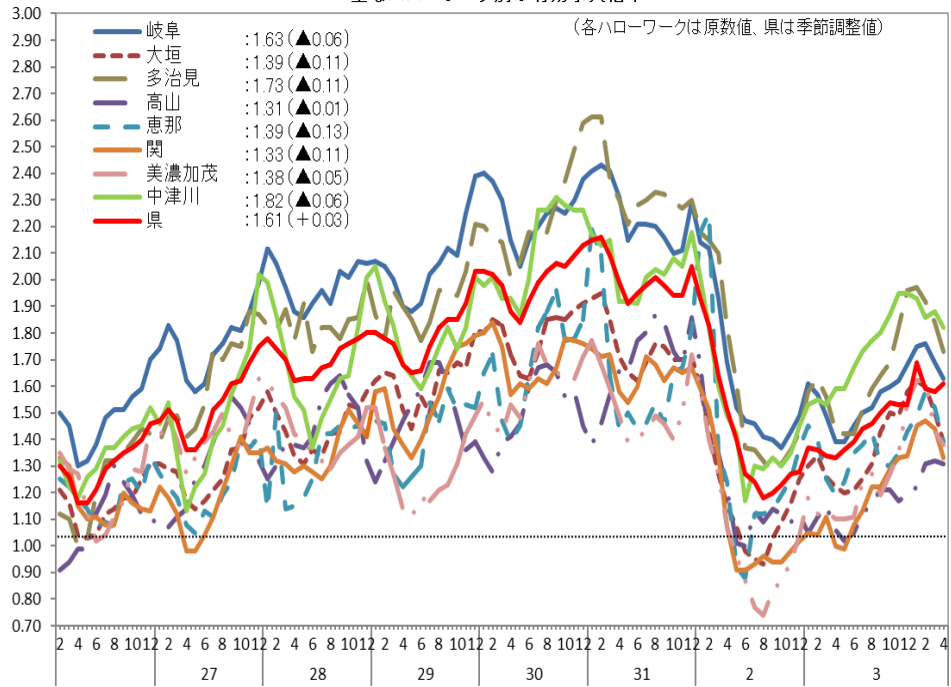
○一方で、事務職の有効求人倍率は0.64倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

○4月の主要産業別の新規求人数は、繊維工業で前年同月比76.77%、窯業・土石で同49.40%、プラスチック製品で同44.78%、生産用機械で同35.09%、輸送用機械で同30.26%、はん用機械で同25.28%、電気機械で同25.00%、食料品製造で同16.07%、金属製品で同15.85%と増加した。



雇用(地域別)

主なハローワーク別の有効求人倍率



注1: 大垣所分は揖斐出張所分を含む 注2: 平成21年4月以降の関所分は岐阜八幡出張所を含む
資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

○4月の主なハローワーク別の有効求人倍率は、全ての地域で低下した。

現場の動き(前月比)

＜ハローワーク岐阜＞

- ◆求人者数、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

＜ハローワーク大垣＞

- ◆求人者数はやや増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数はやや増加。

＜ハローワーク多治見＞

- ◆求人者数は増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

＜ハローワーク高山＞

- ◆求人者数、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

＜ハローワーク恵那＞

- ◆求人者数、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

＜ハローワーク関＞

- ◆求人者数は増加、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

＜ハローワーク美濃加茂＞

- ◆求人者数は減少、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

＜ハローワーク中津川＞

- ◆求人者数は減少、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

＜窓口の様子＞※前月比

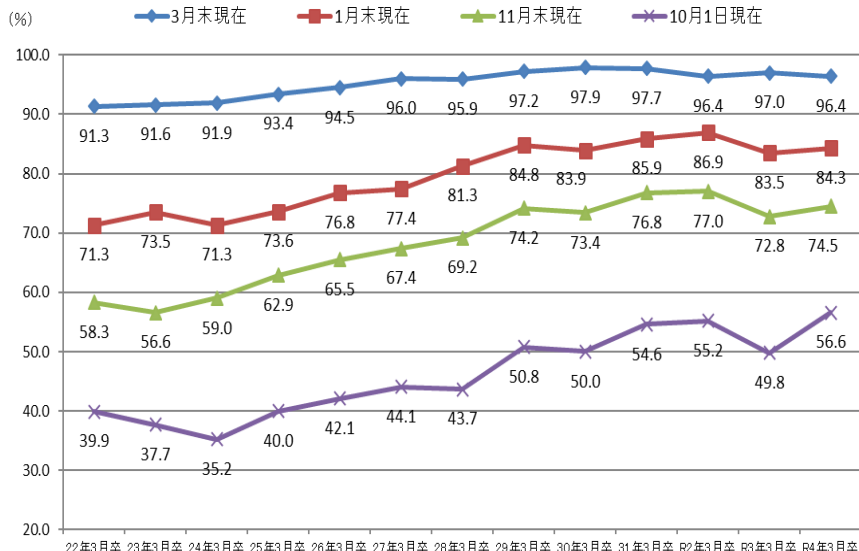
- ◆多治見、高山及び中津川で混雑、岐阜、大垣及び関で横ばい、恵那及び美濃加茂でやや空いている状況。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○岐阜県の令和4年3月末時点の大学・短大卒業生(令和4年3月卒業)の就職内定率は、96.4%であり、前年同時点と比べ▲0.6ポイントと低下した。

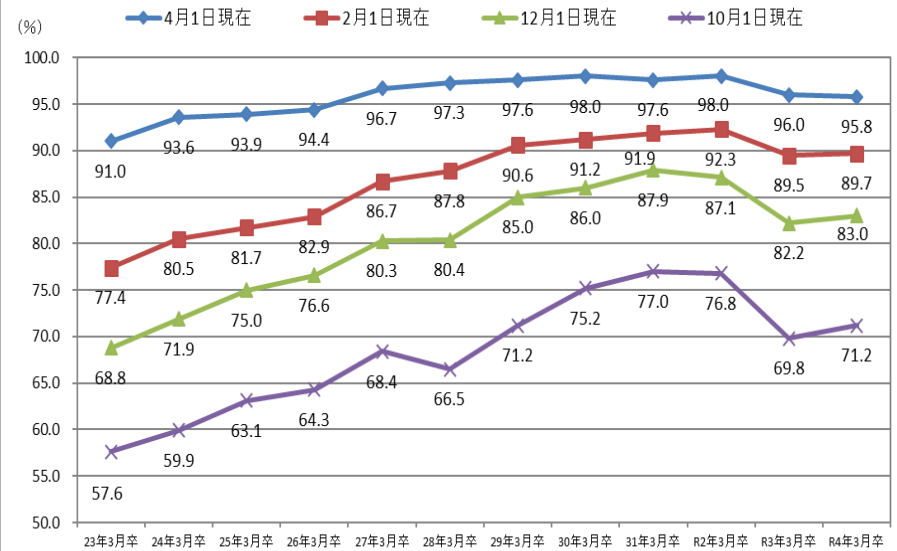
○全国の令和4年4月1日現在の大学卒業生(令和4年3月卒業)内定率は95.8%であり、前年同時点と比べ▲0.2ポイントと低下した。

新規卒業生(大学・短大)の就職内定率の推移<岐阜県>



資料:岐阜労働局「新規学校卒業生(大学・短大)の就職内定状況」
資料:岐阜労働局「新規学校卒業生(大学・短大)の就職内定状況」

新規卒業生(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料:厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

現場の動き(2023卒、2024卒の動きなど)

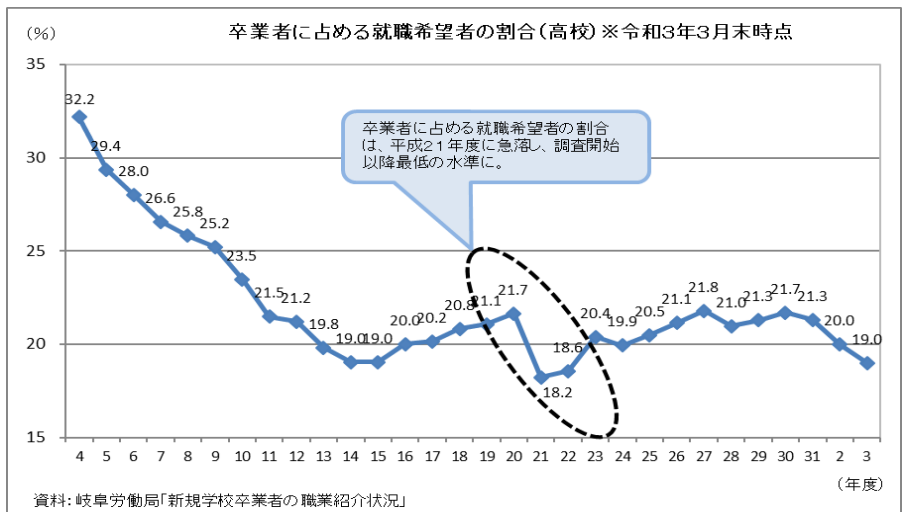
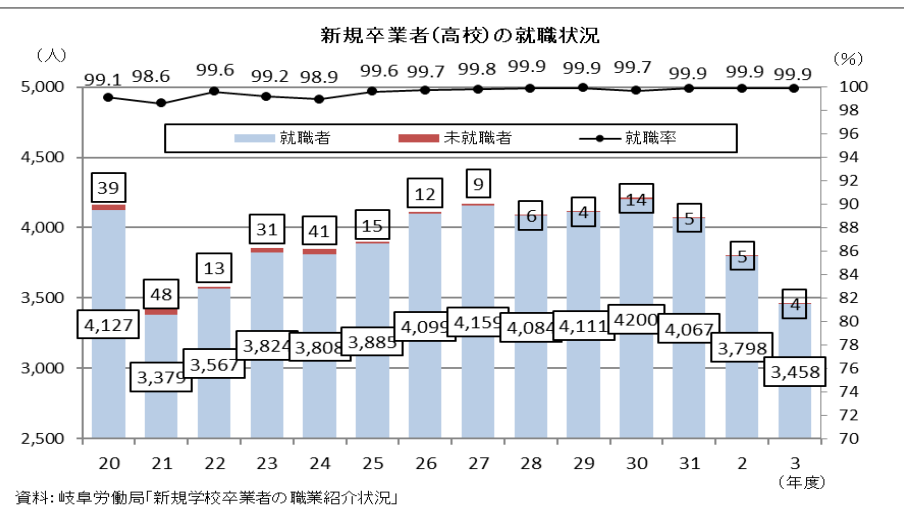
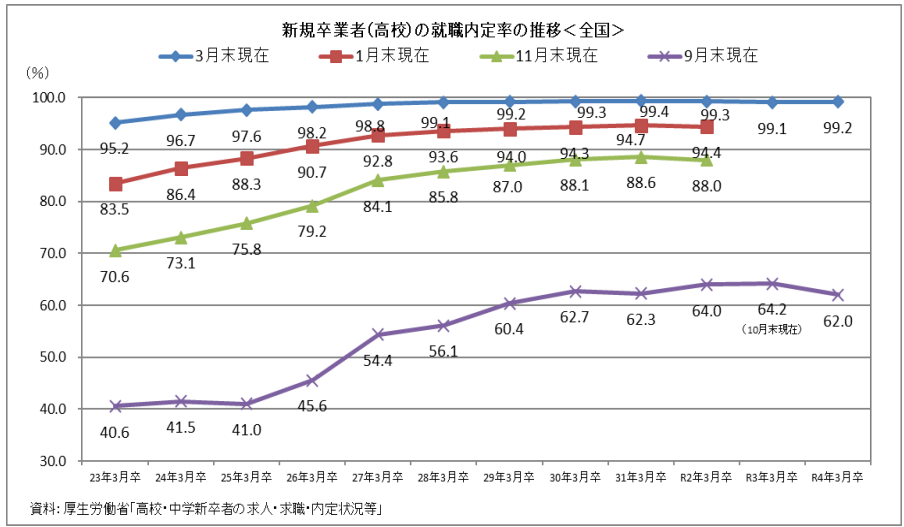
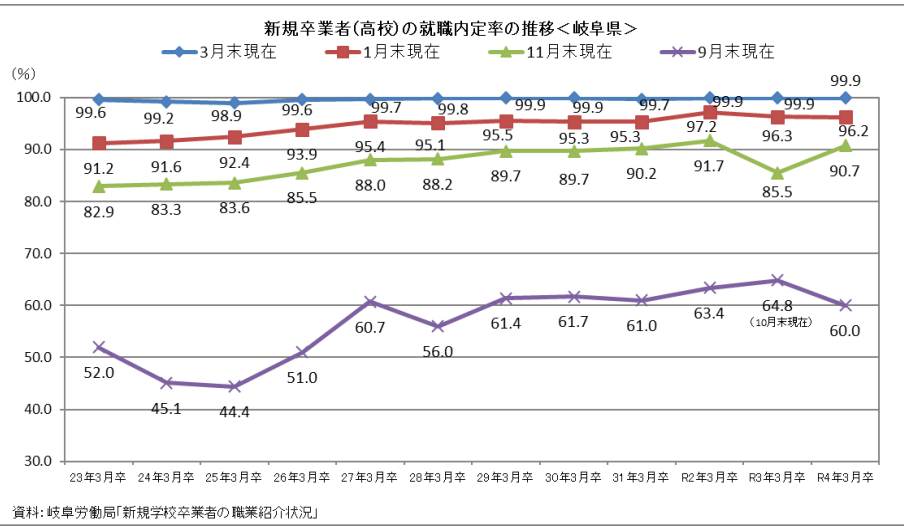
<大学へのヒアリング>

- ◆ 23卒生の内定率は38%ほど。昨年同時期に比べ、2~3%UPしている。
- ◆ 23卒生の相談は主に面接対策が多い。
- ◆ 24卒生ではちらほらとインターンシップについての相談が入るようになった。(以上、岐阜県内大学)
- ◆ 23卒生で内々定は4~5割ほど。IT業界などが多い。
- ◆ 24卒生向けガイダンスを4月中旬よりオンラインで開始。参加率は昨年より上昇。昨年以上にガイダンスに参加するように案内を行った。(以上、愛知県内大学)

雇用(高校新卒者の就職)

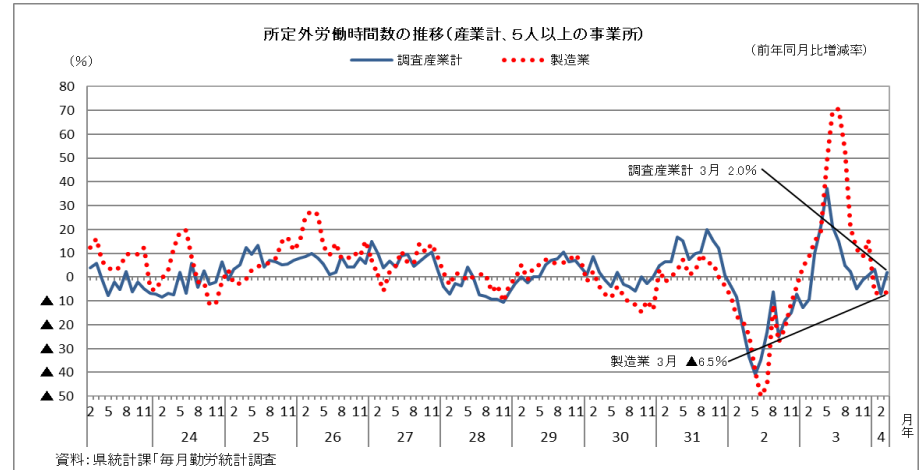
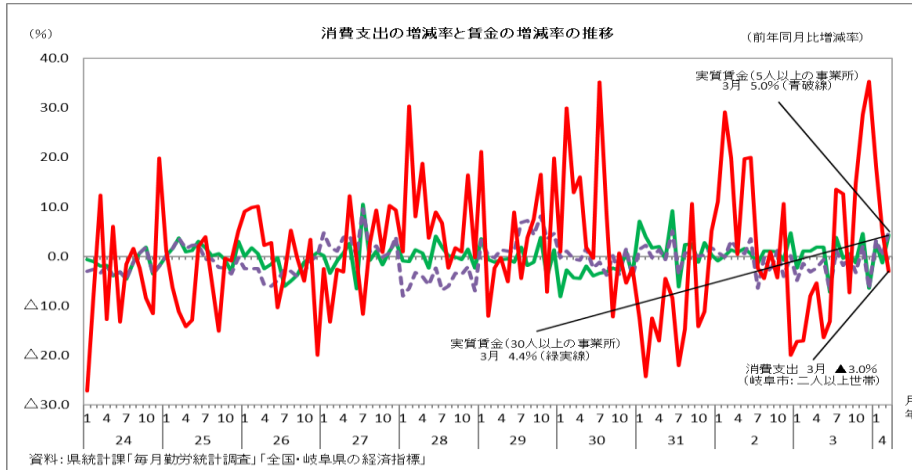
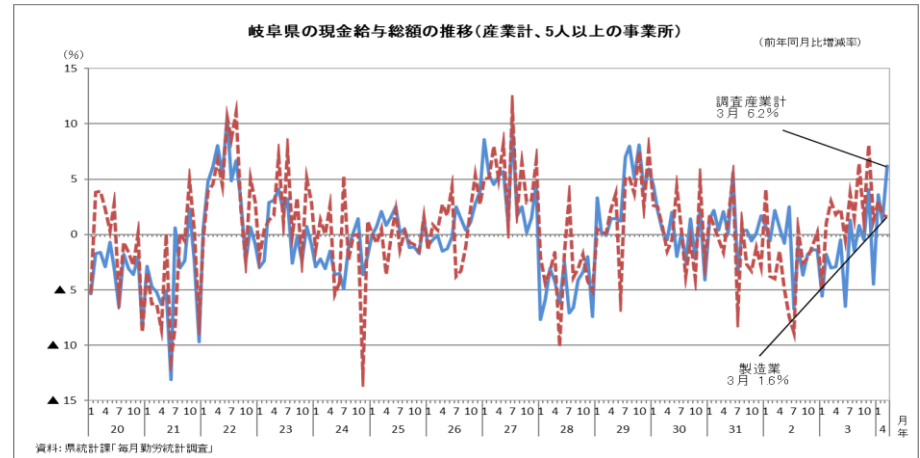
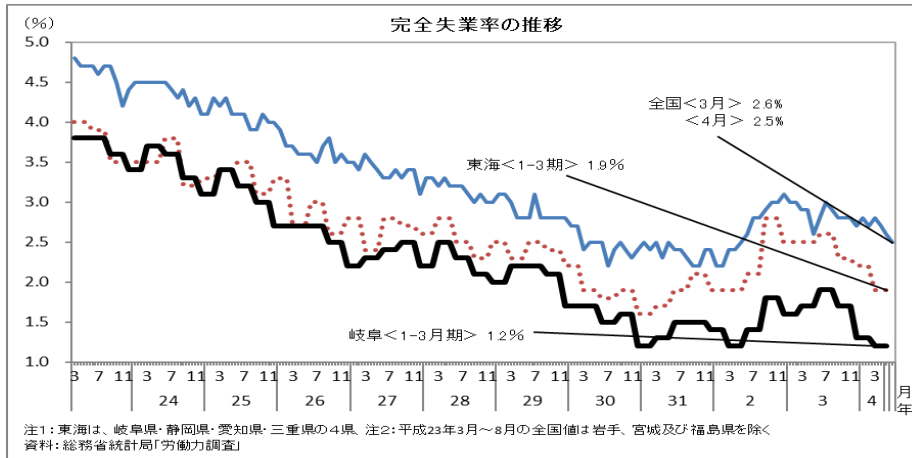
○岐阜県の令和4年3月末時点の高校卒業者(令和4年3月卒業)就職内定率は99.9%であり、前年同時点と比べ±0ポイントだった。

○全国の令和4年3月末時点の高校卒業者(令和4年3月卒業)就職内定率は99.2%であり、前年同月比で0.1ポイント上昇した。



雇 用(完全失業率等)

- 全国の4月の完全失業率は2.5%で前月比▲0.1ポイントと低下。岐阜県の1-3月期の平均は1.2%で前期比▲0.1ポイントと低下した。
- 3月の現金給与総額は、調査産業計で前年同月比6.2%上昇、製造業で同1.6%上昇。
- 3月の実質賃金増減率は、30人以上の事業所で前年同月比4.4%と上昇、5人以上で同5.0%と上昇。3月の消費支出については同▲3.0%と低下した。
- 3月の所定外労働時間数は前年同月比2.0%で、2ヶ月ぶりに上昇した。



<経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業は、3月の鉱工業生産指数は前月比11.9%と上昇。ヒアリングでは、上海ロックダウン等による生産効率悪化に伴う費用が増加し、営業利益が5割弱減少したとの声や、半導体不足や中国への輸出減少による売上減少に加え、原材料の高止まりが業績を圧迫しており、今後の見通しが立たないとの声が聞かれた。
- 地場産業は、3月の鉱工業生産指数は、家具、食料品及び木材・木製品以外で上昇した。ヒアリングでは、受注は増加しているものの、あらゆる原材料の高騰が続き、価格転嫁が追い付かないという声や、材料の入荷遅延により、納品までの期間が伸びているという声、LNG価格が高騰しており、4月から値上げを実施しているが、本格的に収益改善するのは今秋以降になるとの声が聞かれた。
- 設備投資は、4月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比で25.0%増加した。ヒアリングでは、DX化に向けてインフラも含めたシステム投資を増額する計画があるとの声や、脱炭素社会に向けた商品開発や、受注先からの要請で太陽光パネルを設置したとの声がある一方で、物流倉庫用の土地を確保し融資の内定を受けていたが、建築価格上昇により建設を見送ったとの声も聞かれた。
- 個人消費は、4月の販売額は、ホームセンター及び百貨店・スーパー以外で増加し、全体で僅かながら増加した。ヒアリングでは、生鮮食品スーパーの一部商品に価格上昇が見受けられ、飲食店にも影響が出始めているとの声や、価格高騰により家電が全く売れず、消費の冷え込みが顕著で先の見通しが立たないとの声が聞かれた。
- 観光は、4月の観光客数、宿泊者数ともにコロナ前の令和元年同月比を大きく下回っている。宿泊施設からのヒアリングでは、県民割が隣接県・地域ブロックまで拡大したため、宿泊客数が増えているという声がある一方で、原材料が値上がりしており、経営に大きな影響を与えているとの声が聞かれた。
- 企業の資金繰りは、4月の制度融資実績は、件数、金額ともに12ヶ月連続で前年同月比で減少した。金融機関からは、ウクライナ情勢や原材料価格上昇による不確実性の高まりから、手元流動性資金を厚くする動きがみられ、設備投資については慎重になっているとの声が聞かれた。
- 雇用面は、4月の有効求人倍率は1.61倍と8ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、新卒以外にも良い人材が確保できているという声がある一方で、雇用しても長続きしないことがあり、製造現場の不足が続いているという声や、募集をしても賃金が安く応募者がいないとの声が聞かれた。